



第 49 号
2008 年 7 月 22 日
LET 九州・沖縄支部事務局発行
〒899-5193 鹿児島県霧島市真孝 1460-1
鹿児島工業高等専門学校 坂元真理子研究室内
TEL・FAX (0995)42-9067
E-mail: secretariat@jlet-ko.org
編集: 柿元悦子・長 加奈子・事務局

WorldCALL 2008 開催まであとわずか

LET 九州・沖縄支部長
大津 敦史(福岡大学)

いよいよ WorldCALL 2008 の開幕まで、後 1 ヶ月を切ってしまいました。思えば 2004 年 7 月、福岡国際会議場で第 44 回全国研究大会を開催した折に、LET 前会長である大八木廣人先生から、WorldCALL 2008 を日本で、しかもこの福岡の地で開催する可能性のあることが示唆され、大変驚いたのを昨日のことに覚えています。次の年、ハワイ大学で在外研究という名の下に遊学している間、再度大八木先生から、開催地が福岡に決定したことをお聞きすることになりました。その時、事の重大さを認識し直し、「ハワイの空がいささか霞んで見えました」と情けない返信をしてしまい、後から自分の小心さに嫌気がさしたことも、まだ記憶に新しいままです。しかし、あれからあっという間に 2 年半が過ぎ、来る 8 月 5 日には preconference 行事を迎えようとしています。大会実行委員長である木下正義 LET 会長を筆頭に、岩崎暁男大会副実行委員長の熱くても聡明なリードのもと、全支部からなる全国実行委員会は、着々とその準備を進めて参りました。そして、もちろん関東と九州の支部実行委員会の先生方の多大なるご協力があることも忘れてはなりません。残りの準備期間は誠に短いですが、これからも心を合わせ、力を合わせて、この一大イベントを成功させたいと願っています。

ただ、気がかりなことが 1 つあります。それは、何故か LET 会員からの参加申し込みが思った

程増えず、一般からの参加者数を下回っていることです。登録を迷われている先生方がいらっしゃいましたら、本紙面をお借りして、是非ともご参加をお願いしたいと存じます。また、ワークショップへの参加も中々定員数に達せず、実行委員一同大変気をもんでおります。これからは、ワークショップだけの一般参加もターゲットに加え、更なる情宣活動を展開していくつもりです。先生方のご協力を切にお願い申し上げます。

最後になりますが、大会開催までのカウントダウンを、これまで以上に充実させたいと覚悟を新たにす次第です。

それでは、支部会員の皆様、WorldCALL 2008 でお会いしましょう！



たった1日で、あなたも最新の CALL スペシャリストに！

福岡大学 奥田裕司

WorldCALL2008 の開催がいよいよ迫ってまいりました！日本全国、そして世界各国から、ソフト・ハードを含めた最新のメディアを外国語教育に何とか有効活用しようと日々奮闘されている方々が、福岡へと集結します。大会のプログラムは既に WorldCALL2008 の HP

(<http://www.j-let.org/~wcf/modules/tinyd0/>) に掲載されておりますが、研究発表・講演・ワークショップのタイトルを見ただけでも、あまりの充実度に驚く事間違いなしです。

特に、今回のワークショップ。この文章のタイトル、「たった1日で、あなたも最新の CALL スペシャリストに！」は決して大袈裟な誇大広告の見出しではありません。ワークショップの HP (<http://www.j-let.org/~wcf/modules/tinyd2/>) を是非ご覧になってください。これだけ「人・ソフト・ハード」が充実したワークショップに参加できる機会は滅多になく、どれに参加しようかと迷う程です。まず「人」ですが、現在 CALL の世界で最先端を走っておられる先生方が日本を含め世界各国から、みなさんそれぞれに様々な専門分野をベースとして、外国語教育に CALL をどう活用するかを提示し、

そしてそれをワークショップ受講者に体験させてくれることになります。最新の技術を体感できる、これが何と言ってもワークショップの醍醐味でしょう。次に「ソフト」ですが、インターネットのサイト利用では、Skype、SNS (Social Networking Service)、ブログ、YouTube、podcasts、英語教材出版社の提供の e ラーニングサイト、google 等、教材作成では、Moodle、Revolution、eXe、Hot Potatoes、XOOPS、日本語読解学習支援システム「リーディング・チュウ太」等、更に最先端のコーパス分析や CALL Journals への研究投稿の仕方等、非常に多岐に及んでいます。最後に「ハード」面では、ワークショップ会場校である福岡大学の最新施設が受け皿となり、電子辞書、携帯電話、PC、iPod 等のメディアが利用される事になります。

どうでしょう、この内容が1日に凝縮されているとはまさに驚きだと思いませんか。参加申し込みに関しましては、ワークショップ専用の簡易申し込み HP (<http://workshop.j-let.org/>) を作成致しておりますので、そちらからお申し込みください。8月5日は、是非ともワークショップが開催される福岡大学へお越し下さい！

WorldCALL2008 市民フォーラム

西南学院大学 柴戸 直善

第3回 WorldCALL2008 世界大会の一環としてのプログラムであり、本大会の前哨戦ともいえる市民フォーラムが開催されます。LET 九州・沖縄支部のなかに WorldCALL2008 九州・沖縄実行委員会が組織されており、その組織が中心となって市民フォーラムを企画しました。これは WorldCALL2008 本大会を LET 会員はもとより地元住民にも周知し理解を深め、大いにこの大会を盛り上げていきたいとの目的を持っています。市民フォーラムの第1部で取り上げている講演・ワークショップ「楽しくはじめましょう、小学校英語」(講師：高橋美由紀 愛知教育大学教授)は、文部科学省の小学校新学習

指導要領で、平成23年度から小学校5・6年で週1コマ「外国語活動」を必修化することを受けた形でのタイムリーなテーマになるのではと期待しています。そして、これに呼応したかのように第2部では、講演会「大人の英語学習」(講師：大杉正明 清泉女子大学教授、NHK 英語講師)を実施し、子供と大人の英語学習の違いなどが理解されればと考えています。これによりこれからの英語教育がますます闊達で、より関心が高まることを願っています。市民フォーラムの詳細は次の通りです。ぜひともご参加をお持ちしています。

【市民フォーラム詳細】

《期日》2008年8月5日(火)
《場所》西南学院大学 福岡市早良区西新 6-2-92
《参加料》第1部・第2部とも無料
《主催》WorldCALL 2008 実行委員会
《申込み》URL: <http://forum.j-let.org>

《第1部》

講演・ワークショップ

「楽しくはじめましょう、小学校英語」

講師: 高橋美由紀 (愛知教育大学教授)

LET 中部支部小学校英語研究部会代表



要旨: 文部科学省の「新学習指導要領」に基づいて、小学校外国語活動を指導することを目的として実施する。具体的には、小学生に効果的な教授法やコミュニケーション能力を育成するためのアプローチ等の理論と、それらの理論的背景を踏まえて、担任教師が主体となって指導するための授業実践例をワークショップ形式で提示する。

時間: 16:00～17:30 (受付: 15:15～)

会場: II 号館 8 階大会議室

対象: 小学校教師/小学校英語補助教師
幼児・小学生をお持ちの保護者の方
小学校英語活動に興味のある方

人数: 100 名程度

保育サービス:

小学生以下のお子様を保育士がお預かり
します。(詳細はお問い合わせ下さい)

《第2部》

講演会「大人の英語学習」

講師: 大杉正明

(清泉女子大学教授、NHK 英語講師)



要旨: 大人の英語学習は「生涯学習」の中で考えるべきだ。自分の学習を計画できる自立した学習者を目指していただきたい。具体的な英語学習のコツは講演の中で明らかにするが、ここでは基本的な「姿勢」を述べたい。大人の英語学習の「お勧め集」: 興味があることを英語で学ぼう。NHK の英語番組を定期的に楽しみましょう。「べからず集」: すぐに結果を求めるべからず。他人の間違いを数えるべからず。

時間: 18:00～19:30 (受付: 17:15～)

会場: 大学チャペル

対象: 一般

人数: 900 名

【WorldCALL2008 世界大会】

WorldCALL2008 Workshop(福岡大学) (8月5日)

WorldCALL2008 市民フォーラム(西南学院大学) (8月5日)

WorldCALL2008 世界大会

大会テーマ: CALL Bridges the World

日時: 2007年8月6日(水)～8日(金)

会場: 福岡国際会議場

春季学術講演会の報告

長崎県立大学シーボルト校 山内ひさ子

平成 20 年度の春季学術講演会が去る 6 月 21 日(土)に支部総会の後に西南学院大学、コミュニティセンターの1階ホールにおいて開催されました。講師として京都外国語短期大学の相川真佐夫先生を迎え、JACET 九州・沖縄支部との共催となりました。

講演のタイトルは「アメリカ合衆国の外国語教育からみえるもの」で、アメリカ合衆国の言語政策の歴史、外国語政策の変遷、外国語教育事情、外国語教育スタンダードへの取り組みなど、合衆国の外国語教育全体を概観し、そこから日本の英語教育への示唆を探るという内容でした。アメリカ合衆国憲法には公用語の規定がないが、近年英語を公用語と規定する州憲法の修正が続出し、2008 年現在では全米 50 州のうち 30 州が英語を公用語と規定しているという。一方で、英語を公用語化することに慎重な姿勢を示す州も存在する。この現状を相川先生は一文で『英語を重要視し、公用語としての法的地位をもたせることで社会を統合しようとする英語第一主義と、一方で多様化社会と、遺産言語 (Heritage Language)、少数派言語 (Minority)、先住民言語 (Native American Language) などと呼ばれる言語を保護する態度を示す多言語主義が混在している』と表現されました。

米国で外国語に関する連邦政府による国家的な統計調査は行われていませんが、「応用言語学センター (Center for Applied Linguistics)」による初等、中等学校での外国語教育の現状調査が 10 年毎に行われています。第1回目は 1987 年、第2回目は 1997 年、そして現在は第3回目の調査が行われている最中であり、その結果は今年9月に中間報告が web 上で行われ、2009 年春頃に報告書が出版される予定だそうです。この調査はアンケート形式の調査で、前回

の調査は 17 の質問事項で構成されていました。前回の調査結果では使用テキストの実態、教員の資格と養成の実態、スタンダードの取り入れに関する実態、小・中・高・大の外国語教育の連携の実態など、全米の外国語教育の様子が浮き彫りになっていました。今回の調査結果で、この 10 年、20 年でどのように変化してきているのか大変興味深いと思われます。

最近のアメリカ合衆国の外国語政策の動向として、相川先生は全米外国語教育協会などの団体を中心に、外国語の全米標準作成に注目されていました。この基準の基本原則として「5 つの C」を掲げて外国語教育の目的を定めているそうです。「5 つの C」とは Communication, Culture, Connection, Comparison, Communities の 5 つで、第 4 学年、第 8 学年、第 12 学年の学習進捗基準としての到達目標が示されています。目標のキーワードに「年齢にふさわしい」という言葉が含まれており、我が国では 2011 年度から正式に小学校 5 年生から英語が必修科目として導入されますので、早期英語教育では特に「年齢にふさわしい」授業や文化活動を実践する英語教育がなされるべきではないかと思いました。

相川先生の講演は、前回の統計結果を示しながら、間もなく発表される中間報告ではどのような点に注目して変化を見るのが良いのかなどを交えた講演で、豊富な内容に加え、大変示唆に富んだものでした。当日はあいにくの大雨で、講演会への参加者は例年になく極端に少なかったのが残念でしたが、土砂降りの中を物とせず集まられた会員にとっては大変有意義が時間を共有できました。講演者の相川先生に感謝したいと思います。

事務局交代について

宮崎公立大学 竹野 茂

2006 年度から2年間、柿元悦子先生(九州産業大学)と竹野(宮崎公立大学)の2名体制で事務局を担当して参りました。柿元先生には、支部研究大会や企業との交渉等、事務局の立て直しに尽力していただきました。誠にありがとうございました。

2008 年度からは柿元先生に代わりまして坂元真理子先生(鹿児島工業高等専門学校)に加わっていただき、引き続き竹野との2名体制で事務局を務めさせていただきます。至らない点が多いとは思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。

事務局交代の挨拶

九州産業大学 柿元悦子

勤務校で支部研究大会が開催された際、大会実行委員として運営委員会に出席するようになってから、その流れのまま2006、2007年度の2年間、事務局長の大役を務めさせていただきました。全く微力ながら、2人体制になったため何とか凌げたと思います。半分以上の仕事を下さった竹野茂先生に感謝申し上げます。

特に今期の事務局は、前事務局からの様々な引き継ぎが出来ない中でやっていかねばならず、困難をきわめました。生来お金の計算が苦手な人間が、支部の大金を預かるということで緊張の連続でしたが、支部長を始め支部運営委員の皆様、また、企業の担当者の方々からのご協力を得ながら何とか仕事を進めることができ、諸々の苦労も自分の成長の糧

となったのだろう、と今振り返っている次第です。また、不十分な点多々あり、思い返すほどに後悔の念もわきます。ご迷惑をお掛けした方々にあらためてお詫び申し上げます。

最後にこの場を借りまして、あらゆる仕事を進めるに当たって具体的アドバイスを下さった、西南学院大学の柴戸直善様に感謝を申し上げます。このアドバイスなくしては新事務局の仕事は成り立ちませんでした。この度、私も鹿児島高専の坂元真理子先生に仕事を引き継ぐ立場となりましたので、最善の形でお渡しできるようにと務めました。これからも、事務局を含む運営委員全員の働きで、LET九州沖縄支部の会員にとって、より有益な活動の場を本学会が提供していけるよう祈念いたします。2年間どうもありがとうございました。

新事務局挨拶

鹿児島工業高等専門学校 坂元 真理子

柿元先生に代わり、今年度から竹野先生と一緒に九州・沖縄支部の事務局長をさせていただくことになりました、鹿児島工業高等専門学校の坂元真理子と申します。慣れないことや知らないことばかりで右も左も分からない状況ではありますが、竹野先生・柿元先生をはじ

め多くの先生方にご指導を仰ぎながら精進していこうと思います。事務の円滑な運営と支部の発展のために、微力ながら力を尽くさせていただく所存ですので、慣れるまでご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、何卒ご指導のほど宜しくお願い致します。

事務局からの連絡・報告

【LET 九州・沖縄支部新運営体制（2008 年度より）】

2008 年度よりの支部新運営体制を掲載いたします。

LET 九州・沖縄支部役員	
(2008～2009)[平成 20(2008)年 4 月現在]	
名誉支部長	田所信成(福岡大学名誉教授) 池浦貞彦(福岡教育大学名誉教授)
会長	木下正義(福岡国際大学)
支部長	大津敦史(福岡大学)
副支部長	島谷 浩(熊本大学)・樋口晶彦(鹿児島大学)
事務局長	竹野 茂(宮崎公立大学)・坂元真理子(鹿児島工業高等専門学校)
理事	大津敦史(福岡大学)・小川直義(長崎県立大学)・島谷 浩(熊本大学)・樋口晶彦(鹿児島大学)・山内 ひさ子(長崎県立大学)
会計監査	古村由美子(西南学院大学非常勤)・松崎 徹(筑紫女学園大学)
運営委員(50 音順) 18 名	石井和仁(福岡大学)・大津敦史(福岡大学)・小川直義(長崎県立大学)・奥田裕司(福岡大学)・柿元悦子(九州産業大学)・川尻 徳(久留米工業大学非常勤)・木下正義(福岡国際大学)・坂元真理子(鹿児島工業高等専門学校)・柴戸直善(西南学院大学)・島谷 浩(熊本大学)・武井俊詳(西南学院大学)・竹野 茂(宮崎公立大学)・長 加奈子(福岡女学院大学短期大学部)・中島 亨(福岡教育大学)・中野秀子(九州女子大学)・樋口晶彦(鹿児島大学)・山内ひさ子(長崎県立大学)・米岡ジュリ(熊本学園大学)
評議員(50 音順) 26 名 *は運営委員を兼ねる	石井和仁*(福岡大学)・大津敦史*(福岡大学)・小川直義*(長崎県立大学)・奥田裕司*(福岡大学)・柿元悦子*(九州産業大学)・柏木 哲也(北九州市立大学)・川尻 徳*(久留米工業大学非常勤)・川上典子(鹿児島純心女子大学)・木下正義*(福岡国際大学)・坂元真理子*(鹿児島工業高等専門学校)・柴戸直善*(西南学院大学)・島谷 浩*(熊本大学)・染矢正一(大分県立芸術文化短期大学)・田上優子(福岡女子大学)・武井俊詳*(西南学院大学)・竹野 茂*(宮崎公立大学)・長 加奈子*(福岡女学院大学短期大学部)・東矢光代(琉球大学)・中島 亨*(福岡教育大学)・中野秀子*(九州女子大学)・林 日出男(熊本学園大学)・樋口晶彦*(鹿児島大学)・安浪誠祐(熊本大学)・山内ひさ子*(長崎県立大学)・米岡ジュリ*(熊本学園大学)・テリー・ラスカウスキー(熊本大学)
学会誌編集委員	樋口晶彦(鹿児島大学)・鈴木千鶴子(長崎純心大学)
国際交流委員	染矢正一(大分県立芸術文化短期大学)
CALL 部会委員	竹野 茂(宮崎公立大学)
支部ネットワーク委員	竹野 茂(宮崎公立大学)
支部紀要編集委員	奥田裕司(福岡大学)・中島 亨(福岡教育大学)・中野秀子(九州女子大学)・森礼子(福岡県立大学)・米岡ジュリ(熊本学園大学)
「支部だより」編集委員	柿元悦子(九州産業大学)・長 加奈子(福岡女学院大学短期大学部)・事務局
学会賞選考委員	山内ひさ子(長崎県立大学)
全国誌「紀要」査読専門委員	中野秀子(九州女子大学)・ロバート・ファウザー(鹿児島大学)・安浪誠祐(熊本大学)・横山彰三(宮崎大学)・林日出男(熊本学園大学)
メルマガ委員	竹野 茂(宮崎公立大学)・長嶺寿宣(熊本県立大学)

【2007 年度会計報告及び 2008 年度予算書について】

2007(平成 19)年度 外国語教育メディア学会九州支部決算報告書

2007 年 4 月 1 日から 2008 年 3 月 31 日まで(単位:円)

項 目		予算 (A)	決算 (B)	B - A	備 考
収入の部	前年度繰越金	844,281	844,281	0	
	会 費 収 入	1,050,000	654,000	-396,000	会員 @6,000(円) × 92 (人) 学生会員 @3,000(円) × 4 (人) 団体会員 @6,000(円) × 11 (人) その他(過年度分) 24,000 (円)
	支部研究大会当日参加費	10,000	13,000	3,000	@1,000(円) × 13 名
	展 示・広 告	400,000	490,000	90,000	展示協賛企業 11 社、ワークショップ参加 2 社、広告料(支部便り、紀要)
	紀要投稿料	50,000	90,000	40,000	支部紀要 7 号
	雑収入	5,000	652	-4,348	利息
	計	2,359,281	2,091,933	-267,348	

項 目		予算 (A)	決算 (B)	A - B	備 考
支出の部	支部研究大会準備費	30,000	30,000	0	支部研究大会実行委員会
	人 件 費	120,000	107,000	13,000	支部研究大会学生アルバイト、講師謝礼
	通 信 費	400,000	63,640	336,360	郵送料
	会 議 費	400,000	167,500	232,500	支部長連絡会、運営委員会、評議員会、 紀要編集委員会
	印 刷 費	400,000	326,550	73,450	支部便り(47, 48 号)、研究大会プログラム・要綱、 紀要(7 号)、事務局封筒印刷他
	事 務 費	100,000	68,501	31,499	宛名ラベル、領収書等
	旅費交通費	150,000	63,780	86,220	支部研究大会
	積立金	300,000	300,000	0	WorldCALL 世界大会他 (2007 年度 WorldCALL 支出 50,560 円) ※2008.3.31 現在累計額 3,178,131 円
	事務局謝礼	48,000	48,000	0	
	支部負担金	144,433	154,350	-9,917	本部会計へ振込 (前年度会費収入*0.15)
	学術講演会	80,000	48,000	32,000	秋季 1 回
	プロジェクトチーム補助金	0	0	0	
	雑費	100,000	98,553	1,447	送金手数料、会費振込手数料、支部研究大会弁 当代他
	予備費	86,848	0	86,848	
	計	2,359,281	1,475,874	883,407	

次年度繰越金 2,091,933 - 1,475,874 = 616,059

2008(平成20)年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部予算

2008(平成20)年4月1日から2009(平成21)年3月31日まで(単位:円)

項目		予算	単価	件数	備考
収入の部	前年度繰越金	616,059			
	会 費 収 入	1,050,000	6,000 3,000	170 10	一般会員 6,000 円 学生会員 3,000 円
	支部研究大会当日参加費	0	1,000	0	
	展 示・広 告	100,000			紀要
	紀要投稿料	50,000			第8号
	雑収入	5,000			利息、紀要販売代金他
	計	1,821,059			
支出の部	支部研究大会準備費	0			支部研究大会実行委員会
	人 件 費	50,000			学生アルバイト代
	通 信 費	200,000			郵送料、事務局電話、FAX 使用料
	会 議 費	300,000			支部長連絡会、運営委員会、評議員会、 紀要編集委員会、他
	印 刷 費	300,000			紀要、事務局封筒、他
	事 務 費	100,000			FAX 用紙、宛名ラベル、領収書、印鑑、ゴム印等
	旅費交通費	0			支部研究大会実行委員等
	積立金	300,000			全国大会、WorldCALL世界大会、他
	事務局謝礼	48,000			
	支部負担金	100,050			本部会計へ振込 (前年度会費収入*0.15)
	学術講演会	160,000	80,000		春季秋季各1回
	プロジェクトチーム補助金	130,000			
	雑 費	100,000			送金手数料、LET 会費振込手数料他
	予 備 費	33,009			
	計	1,821,059			

【LET 九州・沖縄支部研究プロジェクトについて】

第4回研究プロジェクト(研究代表者:荒木瑞夫先生(宮崎県立看護大学)、テーマ:「コミュニケーション・ツールを用いたライティングの効果的指導法について」)が2007年度を持ちまして終了いたしました。

2008年度より第5回研究プロジェクトが発足いたしました。「中学生の書く力の向上を目指して」というテーマで、富永 美喜先生(福岡市立和白中学校)を研究代表者とし、共同研究者として川尻 徳(久留米工業大学非常勤)、堤 琴恵(福岡市立和白中学校)両先生を加えた研究プロジェクトチームです。2年間の研究で実りある研究成果を出されることを期待しております。

【新会員】2007年11月1日以降(50音順)

小田 まり子(久留米工業大学)
川浪 一也(福岡大学附属大濠中・高等学校)
坂元 真理子(鹿児島工業高等専門学校)
Mayo, David(福岡女学院大学短期大学部)
矢野 英子(久留米大学外国語教育研究所)
龍 恒子(九州工業大学)

【会員所属移動】2007年11月1日以降(50音順)

小川直義(長崎県立大学)
山内ひさ子(長崎県立大学)

【2008年度 LET 全国総会等】

8月4日 LET 支部長連絡会・各種委員会・理事会(福岡大学)
8月5日 LET 総会(福岡大学)

【会費納入のお願い】

LET九州・沖縄支部の2008年度会費の振込用紙を送付しております。早めの納入をお願いいたします。また、2007年度までの会費をまだ納入されていない会員の方は、できるだけ早めに振り込んでいただきますようお願いいたします。支部の円滑な運営にご協力ください。会員情報にはメールアドレスをお書きいただきますようお願い申し上げます。なお、住所・所属等に変更が生じた場合には、振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくとともに、新IDシステムによりWebページからの変更も忘れずに行なっていただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

<LET 本部> <http://www.j-let.org/>
<LET 九州・沖縄支部> <http://www.j-let.org/kyushu-okinawa/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒880-8520 宮崎県宮崎市船塚1-1-2
宮崎公立大学 竹野茂研究室内(TEL: 0985-20-4789, FAX: 0985-20-4789)
〒899-5193 霧島市隼人町真孝1460-1
鹿児島工業高等専門学校 坂元真理子(TEL: 0995-42-9067)